

令和6年度和歌山県文化功労賞

ほり
堀

みちお
道雄

住 所 和歌山県和歌山市
出 身 地 大分県速見郡日出町
生 年 昭和23年

◎ 業績及び経歴

ひじまち

昭和23年大分県速見郡日出町に生まれる。昭和52年京都大学理学研究科博士課程修了、博士号を取得。同年から和歌山県立医科大学で生物学の教鞭をとり、助手・講師・助教授を務め、平成6年から京都大学理学部動物学教室で助教授・教授を歴任した。

氏は、魚類などの水生動物の左右性について独自の研究を展開し、水生動物では、全ての個体が右利きか左利きのどちらかであり、捕食・被食関係においては少数派が有利となるために、この左右二型の比率が周期的に変動しており、それ故に多種が共存することを発見した。この左右性は、全ての魚類、さらにエビ・カニ、コウイカの個体群でも、同様の機構で二型の比率が周期的に変動し、多種が安定的に共存する証拠を多角的に示した。新たな分野を開拓して発展させた功績は高く評価される。

氏は、ハンミョウ類の生態の研究でも目覚ましい成果を上げている。和歌山県では、昭和50年に白浜町日置川河口でヨドシロヘリハンミョウを発見した。現在、本種は県のレッドデータブックで「絶滅危惧Ⅰ類」に分類され、県内では日置川河口のみに生息する希少種であり、本県の生物多様性を象徴する重要な発見である。その生息地は、本種の分布の東限であり、和歌山県は平成28年に天然記念物に指定したが、氏はその際に本種の生態や学術的価値、希少性、地域指定の範囲など多くの助言で貢献した。

令和2年からは和歌山県立自然博物館協議会委員及び同評価部会委員を務め、同館の魅力向上や、県民から親しまれる施設を目指した提言とともに、学芸員へも的確な助言を送るなど、自然博物館の機能向上に大きく貢献している。さらに、本県が次世代の自然環境保全の担い手の育成を目指して令和3年度から始めた「わかやまネイチャー・アワード」では、令和5年度まで審査に携わり、応募したこどもたちに、意欲や探究心を刺激する助言を行うなど、未来を担う人材の育成・発掘にも貢献している。

長年にわたり、研究者として活躍するとともに、本県の希少生物種の保全と自然科学の向上に貢献してきた功績は誠に多大である。

■ 現 在

- ・京都大学名誉教授
- ・和歌山県立自然博物館協議会 委員
- ・和歌山県立自然博物館協議会 評価部会委員

◆ 主な表彰歴等

- ・平成5年 滋賀県生態学琵琶湖賞
- ・平成20年 日本動物学会 Zoological Science Award
- ・平成25年 日本動物学会 Zoological Science Award (2件)
- ・平成30年 日本動物学会 Zoological Science Award
- ・令和5年 日本動物学会 Zoological Science Award
- ・令和5年 日本動物学会賞